

主催者挨拶

公益財団法人日本海事センター会長の宿利正史です。第2回 JMC 海事振興セミナーの開催に当たり、ご挨拶を申し上げます。

日本海事センターは、海事社会の中核的なシンクタンクとして、大きく流動化する国際情勢の下、産学官の関係者との連携・協働により、海事関係の調査・研究事業や助成事業などに取り組んでいます。

本年3月から、これまでの「海事立国フォーラム」に加え、新たに「JMC 海事振興セミナー」を開催することといたしました。

3月14日に「新型コロナウイルス感染症の拡大等で大きく変貌するコンテナ船業界」をテーマとして第1回セミナーを開催したところ、多くの方々にご参加いただき、大変好評をいただきました。改めて感謝申し上げます。

本日は第2回として、「RCEP 下とポストコロナの東アジア物流の展望」をテーマに開催いたします。

皆さまご承知のとおり、本年1月、日本・中国・韓国を含む15か国が参加する東アジア地域包括的経済連携（RCEP）が発効しました。

RCEP の誕生を受けて、東アジアを中心とした広域的な貿易活動が益々活発化し、グローバル・サプライチェーンを構成する海運・鉄道を利用する国際複合一貫輸送についても一層の進展が予想されています。

さらに、ブロックチェーンに基づく貿易電子化など、グローバルなシームレス物流ネットワークの構築も急速に進んでいます。

一方、第1回 JMC セミナーでも取り上げましたが、新型コロナウイルスのパンデミックを契機としてコンテナの海上荷動量が増加し、過去に例を見ないグローバル・サプライチェーンの混乱が続いています。

ロシアによるウクライナ侵攻に伴う経済の混乱、さらにはゼロコロナ政策に基づく中国上海市での都市封鎖（ロックダウン）が約2か月間続いたことなども、世界の物流に大きな影響を与えています。

このような最近の状況を踏まえ、第2回 JMC セミナーのテーマとして「RCEP 下

とポストコロナの東アジア物流の展望」を取り上げたところ、大変多くの方にご参加の登録をいただきました。厚く御礼申し上げます。

本日は、まず最初に国土交通省の寺田公共交通・物流政策審議官から、東アジア物流に関する国の取組みについて特別講演をしていただき、続いて当センターの福山客員研究員から基調講演を行います。

次に、神戸大学大学院准教授の石黒先生にモデレーターをお願いし、日本・韓国・中国の取組について、それぞれ NX 総合研究所リサーチフェローの田阪様、九州産業大学准教授の魏先生、SITC インターモーダルジャパン社長の呂様からご発表いただいた上で、質疑応答を行います。

最後に、コメンテーターとして、九州国際大学教授の男澤先生から総括的なコメントをしていただく予定です。

本日のセミナーがご参加いただきました皆様にとりまして真に有益なものなりますことを期待いたしまして、私の冒頭の挨拶といたします。

本日は、誠にありがとうございます。